



カフェ・ド・オデン

今年度も「Café de Oden」開催します

2012年、年間の自殺者総数が15年ぶりに3万人を下回りました(27,858名)。これは、2006年の自殺対策基本法、改正貸金業法など多重債務対策が効果をあげたといわれています。2013年の全国の自死者数は2年連続で3万人を下回り、2012年の統計では、京都府の自死者数464人と、平成8年以降、最も少なくなりました。また、京都府は人口10万人あたりの自殺者の割合が都道府県別で最も低くなっています。

しかし一方で、対策が手薄だった若年層の自死は深刻な状況にあります。年代別の死因順位をみると15～39歳の各年代の死因の第1位は自死となっています、男女別にみると、男性では15～44歳という、学生や社会人として社会を牽引する世代において死因順位の第1位が自死となっており、女性でも15～34歳の若い世代で死因の第1位が自死です。この状況は国際的にみても深刻であり、15～34歳の若い世代で死因の第1位が自死となっているのは、先進国では日本のみであり、その死亡率も他の国に比べて高いと報告されています。

このような状況であるにも関わらず、若年層への支援は十分に整っているとは言い難い状況です。ある調査によると、大学生が就職活動などで悩んだ時に、大学が設置しているキャリアセンターに相談しようとする学生は非常に少ないそうです。また、悩みやストレスを抱えた時、誰かに相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じるという若年層は多いといわれています。

そのような背景があるなか、当相談センターが2013年度より開催するSottoおでんの会には、若年層(20代～30代)の参加者が全体の3分の1以上を占めました。若年層の参加が多いという特徴を活かし、2014年度自殺対策強化月間の3月に期間限定で、生きづらさを抱えた若年層を対象とする居場所づくりを毎週(合計4回)開催しました。各回

5名から10名ほどの参加者があり、アンケートでは毎回高い評価をいただきました。そこで、昨年度の実績や経験を活かし、今年度も、生きづらさ抱えた若年層のための居場所づくり「Café de Oden」を9月より、毎月2回、開催します。様々な方に参加していただける、平日（火曜日）と日曜日で開催します。また、会場も雰囲気異なる場所を借りています。居心地の良い場になるよう、スタッフ一同企画運営に励みます。ご支援ご協力のほど、よろしくお願いたします。

（居場所づくり委員長 藪野廣由）

年齢別死因(平成22年人口動態統計より)..

年齢階級	第1位	第2位	第3位
10～14歳	不慮の事故	悪性新生物	自死
15～19歳	自死	不慮の事故	悪性新生物
20～24歳	自死	不慮の事故	悪性新生物
25～29歳	自死	不慮の事故	悪性新生物
30～34歳	自死	悪性新生物	不慮の事故
35～39歳	自死	悪性新生物	心疾患
40～44歳	悪性新生物	自死	心疾患
45～49歳	悪性新生物	自死	心疾患
50～54歳	悪性新生物	心疾患	自死
55～59歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60～64歳	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患

委員会活動紹介⑥ファンドレイジング委員会

支援者の関心の中に居続けるために

Q. ファンドレイジング委員会ではどんな活動をしていますか？

A. ファンドレイジングという言葉は、fund（資金）をraise（増す）するという意味です。ごく簡単に言うと、ファンドレイジング委員会は活動資金をどのように増やしていくかを考えるための委員会です。

Sottoの活動は、京都市や京都府からの一部の助成事業を除いて、会員のみなさんからいただく年会費や寄付金で運営しています。

Sotto は自死の苦悩を抱えたときの心の居場所をつくるために活動をおこなっています。そして居場所として、いつでもここにあり続けるためには、活動を継続していく経済的な支えが不可欠です。しかし、活動の意義や大切さを広く一般に知っていただき、継続して応援していただくことはなかなか難しく、そのことへの対策の必要性を感じています。

Sotto は誰のために何ををしていて、それにどんな意味があるのか。Sotto の存在意義とは何か。支援していただくために、Sotto で何がおこっているのかを分析し、活動を簡潔に言い表す言葉を探すこともこの委員会の仕事です。いくつもの事例や思い出を振り返ったり、話し合いを重ねています。「心の居場所」というキャッチコピーも、試行錯誤しながらたどり着いた表現です。

Q. やりがいを感じる時は？

A. 時間をかけて活動の意義を見つめ直し、分析するというのは、棚卸し作業のようなもので、それ自体は大変なものです。しかし無意識であったり、気がついていなかったような潜在的価値を見いだせたときには、とても清々しい気持ちになります。また、そうやって紡ぎだしたフレーズに共感していただけたり、新たな支援者に出会えたときにとてもやりがいを感じます。

Q. 逆に困難を感じる時は？

A. Sotto が安心して思いを打ち明けることのできる場所であるために、電話やメールの相談内容を明かすことは決してできません。百聞は一見にしかずではあるのですが、リアルな現場を伏せた状態での説得力、訴求力をもたせていくことが思った以上に難しいです。また、一時的に関心をもってもらった方に、継続して支援してもらいたいよう、その方の関心の中に居続けるというのがさらに難しいです。

Q. 今後の展望について

A. 委員会では、どのように活動するのかという方針自体も、まだまだ手探りであったり、行き当たりばったりな部分もあります。

Sotto のこれまでの活動の蓄積を整理していくと同時に、支援者の方にとって応援しやすい形の模索、また、応援し甲斐のある団体となっていけるよう新しい工夫や挑戦を続けていきたいと思っています。

(事務局長 金子宗孝)

今月のことば

をりとりて はらりとおもき すすきかな

(飯田 蛇笏『山廬集』所収)

活動報告

- 8月期電話相談件数…185件（無言31件、よりそいホットライン担当53件を含む）
- 8月期メール相談件数…受信件数59件送信件数51件
- メール相談委員会 … グループ研修8月10日（月）、18日（火）、28日（金）
31日（月）各2名
- グリーフサポート委員会 … 語りあう会8月13日（木）4名（参加者3名）
居場所づくり委員会との合同研修8月30日（日）15名
- 広報発信委員会 … 委員会会議8月3日（月）6名
- 居場所づくり委員会 … 委員会会議8月24日（月）4名
おでんの会”研究の場”6名（参加者10名）

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2015年8月1日～31日 受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派

株式会社エクザム

葛野洋明

福岡県築上郡・覚円寺（霍野廣紹）

霍野由美

八尾市・恵光寺

滝口隆誠

鈴木八代子

みやま市・浄弘寺（下川弘暎）

北九州市・西蓮寺（黒田幸裕）

永江武雄

熊本県上益城郡・法光寺

Sotto コメント

秋になって月がきれいですね。夜、振り向いて月が出ていたりすると、見守ってもらっているような気持ちになります。(N..Y.)

発行 2015年9月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局

〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92

T E L 075-365-1600

U R L <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp